

令和 7 年度事業報告

社会福祉法人 尼崎武庫川園

1 令和 7 年度事業総括

令和 7 年度は、武庫アルテンハイム建替整備について西宮市の整備補助金の支給申請、独立行政法人福祉医療機構の借入金申請業務を確実に進めた。工事期間中の活動区域の制限の周知及び職員等の駐車場確保等、工事業者や各事業所と連携して安全第一に進めた。新規事業として放課後等デイサービス事業の実施場所等について検討を進め、松の園の多目的室及び第 1 松の園を兼用することとし、具体的な事業計画の策定に向けて協議を行った。国の処遇改善施策による賃上げについては 7 年度補正予算による支援事業及び 8 年度の臨時報酬改定による加算相当分を活用し基本給のベースアップを実施した。以下、事業計画の項目ごとに報告を行う。

（１）武庫アルテンハイムの建替工事について

武庫アルテンハイム建替工事について、建物本体工事は事故なく順調に行われ、令和 8 年 2 月末に主たる工事を終え 3 月に各種検査を受け、3 月 18 日には西宮市より仮使用許可を得ることができた。独立行政法人福祉医療機構からの借入金は令和 7 年 10 月に 2 億円、令和 8 年 3 月に 5 億円をそれぞれ借り入れた。西宮市の特別養護老人ホーム等建設補助金は令和 8 年 3 月に完了報告を行い、令和 7 年度分 147,798 千円の支給が決定した。今後、既存施設の解体及び外構整備工事に取り掛かることとなる。

（２）人材確保について

採用チームによる各種就職フェアへの参加及び多様な媒体を使った求人活動を行ったが、正規職員は中途採用 2 名、武庫アルテンハイムの特定技能実習生 3 名（国籍：インドネシア）非常勤職員については 2 名の採用となり計画していた人材確保数には至らなかった。施設実習生や介護等体験の学生に向けて「介護・支援」のやりがいや魅力の発信にも力を入れた。また、非常勤や派遣職員等ではシニア層や短時間といった多様な働き方にも対応するよう努めた。

（３）人材育成について

法人の理念に沿った人材育成のシステム作りを行うため、昨年度に引き続き中核的な役割を担う職員への OJT 研修を強化して実施した。各事業所で個々のキャリアに応じた外部研修参加を計画的に実施することで知識の積み上げを図った。全階層で必須となる研修についてはオンライン研修を積極的に活用するようにした。法人研修は主に中堅層に求められる役割を再確認することを意識したテーマを設定し、外部講師による集合研修を実施した。また、管理者・役職者向けに MBTI 研修（性格タイプの理解）を実施し、自己理解や他者との協調を促進する一助とした。さらに継続研修によるタイプの理解度の向上とタイプを

意識した今後の職員とのかかわりについて考える機会を持った。

（４）ワークライフバランス等への取り組みについて

育児休業等の改正事項の職員周知を行い、男女とも育児休業の取得率向上に努めた。令和 7 年度中の対象者は男性 1 名女性 1 名おられ、期間の長短はあるが 100 %の方が育児休業を取得された。また、介護休業、介護休暇、育児短時間制度等も利用実績があった。職員の心の健康づくりのためのメンタルヘルス研修やストレスチェックを実施した。

（５）地域貢献・地域における公益的な取組の推進について

地域交流として、尼崎武庫川園祭りはご家族を交えて実施する予定だったが、あいにくの雨となり、恒例のビンゴ大会は行ったものの、各施設でお楽しみ行事として実施した。地域の方に法人の活動を知っていただく機会として西宮市民祭り等へ参加し、展示や物品の販売等を行った。公益的な取り組みとして、西宮市社会福祉協議会との連携や「ほっとかへんネット西宮」の取り組む研修や職員交流などに参画し、地域の課題解決にともに取り組むよう親交を深めた。また地域の段上福祉委員会や地区懇談会及び段上地区社会福法人連絡協議会へ積極的に参画した。

（６）災害対策の整備について

各事業所にて計画に基づき防災訓練を実施し、災害時の落ち着いた行動や避難ができるよう努めた。備蓄食料については入所施設の人数を目安に 3 日分を確保し、水害に備えて新館及びリーブ・フルーリーの 4 階に保管した。6 月には BCP シミュレーションとして総合防災訓練を実施し、洪水発生時の連絡体制の確認や垂直避難訓練を行った。

（７）委員会活動について

衛生委員会では、施設巡回を行い職場環境の改善へ向けた提言や良い取り組みを共有するようにした。腰痛調査、ストレスチェックを実施し、結果を公表するとともに職員の心身の健康増進への啓発を行った。委員会主催として「食習慣とこころの健康」をテーマに研修を実施した。

虐待防止委員会では、令和 6 年度の各事業所における虐待防止・身体拘束の適正化を図る取り組みについてまとめ、7 月に委員会を開催した。事例や取り組み内容を公表するとともに運営規定の整備にかかわる情報提供や必須となる研修の案内を行い、虐待を未然に防ぐよう努めた。

感染対策委員会では、各種感染症発生時のシミュレーション研修を実施し、「気づき」を共有することで感染対策の強化を図るようにした。

また、法人内事業所の巡回を行い、各事業所で発生する感染症の情報や感染リスクに対する対策についても共有するなど集団感染への備えを行った。

また、各事業所で発生する感染症の情報を共有するなど集団感染への備えを行った。

広報委員会では、各事業所のトピックスや新任職員の紹介等の情報を機関誌として年 2 回発行した。またホームページの公開情報更新やブログ、インスタグラムなどを通して法

人の魅力を発信し、職員の採用や新規利用者の獲得につながるよう活動した。

リスクマネジメント委員会では、各事業所で起こったヒヤリハットや事故事例を共有するとともに、事例に対する評価・検証を行い、有効な対応策の検討や提案について意見交換を行った。また、誤薬・誤配薬防止のためのキャンペーンを行い、利用者へのリスク回避を意識づけた。

採用チームでは、新卒採用を中心に魅力あるプレゼンテーションやわかりやすい説明の工夫などを若手職員も交えて検討し、各種就職フェアに参加した。また、就職説明会や施設見学の受け入れを定期的を実施し、先輩交流には採用 1～3 年目の職員を参加させるなどして学生により近い目線で福祉で働く魅力を伝えるよう活動した。

2 職員配置

常務理事 事務局長兼務	施設長	事務員 施設事務兼務		
1	5	2		

8 年 3 月 31 日現在

3 法人主催研修

実施日	研修名	人数及び対象階層
4 月～5 月	新人職員研修	2 名 新規採用者
7 月 19 日	利用者主体の支援	6 名 全階層
8 月 7 日	OJT・リーダー養成研修	9 名 役職者・OJT 担当者
9 月 19 日	メンタルヘルスラインケア研修	12 名 管理者・役職者・衛生委員等
10 月 15 日	MBTI 継続研修 A グループ①	12 名 管理職・役職者
11 月 17 日	MBTI 継続研修 B グループ①	10 名 管理職・役職者
11 月 29 日	利用者主体の支援	7 名 全階層
12 月 18 日	OJT・リーダー養成研修	11 名 役職者・OJT 担当者
12 月 22 日	MBTI 継続研修 A グループ②	8 名 管理職・役職者
1 月 23 日	MBTI 継続研修 B グループ②	11 名 管理職・役職者

2月9日	MBTI 継続研修 A グループ③	11名 管理職・役職者
2月21日	実践報告会	33名 全職員+外部2名
3月23日	MBTI 継続研修 B グループ③	8名 管理職・役職者

4 年間行事

月	行 事 内 容
4月	1日 辞令交付式、法人新任研修 委員会（衛生、採用）
5月	12日 会計監査 21日 定期健康診断 22日 監事監査 委員会（衛生、リスク、広報、採用）
6月	5日 第1回理事会（決算報告等） 11日 総合防災訓練 24日 定時評議員会（決算報告等） 第2回理事会（理事長選任） 委員会（衛生、広報、感染）
7月	7日 評議員選任・解任委員会開催 28日 第2回理事会（書面決議） 委員会（衛生、リスク、広報、採用、虐待）
8月	25日 評議員選任・解任委員会開催 委員会（衛生、広報）
9月	委員会（衛生、リスク、広報、採用、感染）
10月	25日 西宮市民祭りへ出展 委員会（衛生、広報）
11月	1日 尼崎武庫川園祭り（職員・利用者） 11日 会計監査（中間期） 22日 正規職員登用試験実施 27日 第3回理事会（第1次補正予算等） 委員会（衛生、リスク、広報、採用）
12月	9日 第2回評議員会（第1次補正予算） 委員会（衛生、広報、感染）
1月	21日 社会福祉法人指導監査 委員会（衛生、リスク、広報）
2月	28日 第2回正規登用試験実施

	委員会（衛生、広報、採用）
3 月	12 日 第 4 回理事会（第 2 次補正予算・令和 7 年度事業計画・令和 7 年度当初予算・就業規則等改正） 24 日 第 3 回評議員会（第 2 次補正予算・令和 7 年度事業計画・令和 7 年度当初予算） 委員会（衛生、リスク、広報、採用、感染）

5 実施事業及び定員一覧

「松の園」	障害者支援施設（知的） ショートステイ（空床型） 定員 4 5 名
「カトレアの園」	障害者支援施設（身体） ショートステイ（空床型） 定員（入所） 4 8 名（通所） 1 0 名
「武庫アルテンハイム」	特別養護老人ホーム ショートステイ 定員（入所） 6 0 名 （ショートステイ） 5 名
「第 2 松の園」	就労継続支援 B 型 定員 3 5 名
「リーブ・フルーリー」	障害者支援施設（知的） ショートステイ 定員（入所） 5 0 名 （ショートステイ） 4 名
「第 1 松の園」	生活介護 定員 5 0 名
「かがやきステーション」	相談支援事業所
「こころ&つばさ」	共同生活援助（グループホーム） こころ&つばさ 定員 4 名 ひまわりガールズ 定員 3 名

松の園

1 令和7年度事業総括

7年度、男性22人、女性23人、計45人満床でスタートした。4月初旬に70代男性利用者がカトレアの園に移籍し、5月1日には第1松の園から50代男性が入所された。本人や家族の気持ち、身体の状態を考慮しての移籍であったが、法人内で次の暮らしの場所を見つけることができ安心されていた。収入面では前年比、約1000万円の増収となり安定している。収入の安定に伴い近い将来必至となる建物の外壁工事、屋上防水工事に向けて修繕費を積み立てることができた。武庫アルテンハイム建替工事は、事故なく順調に行われ2月末に主たる工事を終えた。窓から建物が出来上がるのを毎日眺めて、楽しんでおられた利用者も多い。

(1) 感染症対策

感染対策の視点からみると、病気を引き起こすウイルス自体の感染性は無くなっていない。抵抗力が弱い利用者が多い中、感染拡大や重症化の懸念がある為、感染対策は特別な時にだけおこなうのではなく、日常当たり前におこなっている。基本の標準予防策を正確に理解し、正しく実行することができていた。災害時を踏まえた備蓄も在庫を確認しながら整えた。

(2) 高齢化・重度化

知的障害者の老化現象は早期に出現する傾向がある。そのため高齢に起因する事故や病気も健常者よりも早い段階で起こっている。今年度も骨折、癌、高血圧、白内障、腸捻転、皮膚疾患等で手術、入院、加療された。50代になると認知機能や身体機能の低下が顕著で、食事や排泄、入浴にも見守りだけでなく介助が必要な利用者が増えた。支援員の休憩時間の取り方を工夫したり、リフトや介護ベッド、シャワーチェア等をリースして対応してきた。

(3) 健康維持

①健康管理の強化と増進②食べやすく楽しめる食事③体力強化を目的とした活動（レクリエーション）④精神的老化の防止⑤意欲的な生活を営める配慮、5つの基本的事項を確認しながら支援方針を確定していった。自分の体調不良をうまく伝えることができない方も多く、65歳以上の利用者には毎週バイタルチェックをおこなった。また、高齢になるほど生活の中での動きが縮小されるので、親しみやすく、参加しやすいような体操の時間をもうけてきた。セラピストによる医師指導のもと作成した支援計画に沿った訓練も行った。

(4) 生産活動・日中活動

日中活動の中心は生産活動だが、利用者が生産に携わるのべ時間、のべ人数は年々少なくなっている。利用者に支払った平均年間工賃は16,600円で昨年度より500円程少ない。松の園に入所を希望される方は、日中生産活動を主軸に置いていることを評価されており、メリハリのある生活をおくることを目指している。また、ボランティアの方々の力を借りての音楽セラピー、ミニキッチンを使ってのおやつ作り、手芸など、余暇も充実させた。

利用者の食への関心は年齢を問わず高く、毎月第4土曜日のバイキング、第2木曜日のお弁当の日など給食ではない食事も楽しんでいただいた。

3月より武庫アルテンハイムの既存建物の解体工事が始まり、以前にもまして法人内の散歩や窓の開閉等が制限されている。安全を第一に考え、利用者が健全にすごせるよう心を配っていく。

(5)「設備整備・備品」

電気錠制御盤取替工事、埋設配管洗浄工事、給湯既設銅配管交換工事、浴室給湯改修工事、トイレ給水管漏水補修工事、階段非常灯取替工事、厨房天井漏水対策工事等、大きな修繕工事を行った。水に関するトラブルが多発し対応に苦慮している。

2 職員配置

施設長	事務員 本部事務兼務	サービス管理 責任者	看護師 (非常勤)	管理栄養士
1	1	1	1(1)	1
柔道整復師 (鍼灸師) 非常勤	支援員 常勤	支援員 非常勤	嘱託医内 科、精神科、歯 科、耳鼻咽喉 科	ボランティア グループ 1 個人 1
1	12	7	4	

令和8年3月31日現在

3 内部・外部研修

外部研修一覧

研修日	研修内容	参加人数
8月18日	新任監督職研修～利用者も、自分も、そして組織もエンパワメントするために～	1
7月24日～ 7月25日	令和7年度甲種防火管理新規講習	1
5月26日	令和7年度フォローシップ研修	1
6月20日～ 6月22日	強度行動障がい基礎・実践研修	1
4月8日	サービス管理者研修	1
7月11日	知的障がい者の高齢化と支援の課題	1
9月22日	『うるう年GO!!DO!!』合同勉強会	1
2月12日～ 2月13日	令和7年度甲種防火管理新規講習	1
『サポーターズカレッジ』動画研修		
4月1日～	障害者虐待とは	23

5月31日		
4月1日～ 5月31日	BCP とは	2 3
4月1日～ 5月31日	身体拘束について	2 3
6月1日～ 6月30日	感染予防とゾーニング	1 7
6月1日～ 6月30日	スタンダードプリコーション	1 7
7月1日～ 7月31日	利用者と接する時のマナーってどうすればいいの？	2 0
7月1日～ 7月31日	第3回「支援者のマナー」	1 8
8月1日～ 8月31日	虐待事案に正しく対処する	1 8
8月1日～ 8月31日	支援者の虐待を防ぐ	1 8
9月1日～ 9月30日	ダウン症とは 基本理解	2 3
9月1日～ 9月30日	ダウン症のある方の支援	1 7
10月1日～ 10月31日	強度行動障がいとは	2 3
10月1日～ 10月31日	なぜ強度行動障がいになるのか	1 7
11月1日～ 11月30日	自閉症スペクトラムの理解	2 2
11月1日～ 11月30日	自閉症の障害特性	1 7
12月1日～ 12月31日	ハラスメントとは何か	2 2
12月1日～ 12月31日	社会問題化するハラスメント	1 7
1月1日～ 1月31日	リスクマネジメントとは	2 0
1月1日～ 1月31日	スタンダードプリコーション	2 0
2月1日～	幻覚・幻聴・妄想に対する基本的対応	1 5

2月28日		
2月1日～ 3月31日	認知症と知的障がい高齢者	16
3月1日～ 3月31日	個別支援計画の重要性	15
3月1日～ 3月31日	個別支援計画の作成とケース記録	15

法人研修一覧

研修日	研修内容	参加人数
7月19日	利用者主体の支援について	1
7月28日	自閉症の特性理解 事例検討会	1
8月7日	OJT 担当者向け研修①	1
9月19日	メンタルヘルス ラインケア研修	2
10月15日	MBTI 研修①	1
11月13日	衛生委員会研修『メンタルと食』	1
11月17日	MBTI 研修①	2
11月29日	利用者主体の支援について	1
12月18日	OJT 担当者向け研修②	1
2月16日	MBTI 研修②	1
3月23日	MBTI 研修②	2
2025年度 介護技術研修		
5月13日 5月27日	介護倫理・ご利用者や介護職員の健康 不良姿勢にならないための身体の使い方の練習	4
6月10日 6月24日	食事摂取における身体の仕組みと介助方法 (口腔機能と食形態)	6
7月15日 7月22日	食事摂取における身体の仕組みと介助方法 (姿勢)	3
8月12日 8月26日	基本動作の介助：起居動作～移乗 (立つことができる利用者の場合)	5
9月9日 9月30日	基本動作の介助：起居動作～移乗 (端坐位ができる利用者の場合)	6
10月9日 10月28日	基本動作の介助：起居動作～移乗 (起きれない、一人では座れない利用者の場合)	5
11月11日	排泄の理解と介助 排泄における身体のしくみ オムツの種類と機能	2
12月9日 1月8日	排泄の理解と介助 オムツの適切な使用方法	4
1月13日	睡眠時の姿勢の介助	5

1月27日	リラックスできる姿勢の支援	
2月10日	睡眠時の姿勢の介助（ポジショニングの技術）	3
2月24日	拘縮や変形がある利用者への対応	

4. 令和7年度行事

月	日	行 事 内 容	参加人数
4月	3	ビンゴゲーム大会・お花見弁当	44
	7～14	花見ドライブ・ウォーキング	43
	10	お弁当会①	45
	8. 24	ミュージックセラピー	35, 34
	26	バイキング①	44
	29	ゴールデンウィーク おやつ作り	40
5月	6	フルーツパフェ作り	40
	8	お弁当会②	45
	21	定期健康診断	45
	13. 22	ミュージックセラピー	36. 37
	31	バイキング②	44
6月	12	お弁当会③	45
	10. 26	ミュージックセラピー	38, 37
	16	ミニ運動会・お弁当	44
	21	バイキング③	44
7月	7	七夕会	45
	10	お弁当会④	45
	8. 24	ミュージックセラピー	36, 38
	26	バイキング④	42
8月	4	おやつ作り（かき氷）	38
	9	夏の魚釣りゲーム大会	38

	14	お弁当会⑤	45
	5. 28	ミュージックセラピー	34, 34
	23	バイキング⑤	44
	30	夏祭り&盆踊り	45
9 月	11	お弁当会⑥	45
	9. 25	ミュージックセラピー	36. 36
	18	耳鼻科検診	45
	20	バイキング	44
10 月	10	ミニ運動会とお弁当会⑦	42
	14. 23	ミュージックセラピー	34. 36
	22. 29	食事会（イタリアンレストラン）	43
	25	バイキング⑦	41
11 月	1	武庫川園祭り	45
	11. 27	ミュージックセラピー	35. 36
	13	お弁当会⑧	43
	29	バイキング	40
12 月	9. 25	ミュージックセラピー	35. 34
	11	お弁当会⑨	43
	20	クリスマスバイキング	43
	24	クリスマス会	45
1 月	10	新年会&ぜんざい作り	30
	8	お弁当会⑩	45

	13.22	ミュージックセラピー	37.36
	24	バイキング⑩	43
2月	3	節分会	45
	10.26	ミュージックセラピー	36.35
	12	お弁当会⑪	45
	21	バイキング⑪	44
3月	3	ひな祭り	45
	10.26	ミュージックセラピー	35.38
	12	お弁当会⑫	45
	14	耳鼻科健診	45
	28	バイキング⑫	43

毎月・毎週の行事

- ・誕生会・理美容・血圧体重測定・内科検診・避難訓練・精神科往診（月1）
- ・オーラルケア・おやつ作り（毎週）・スヌーズレン・カラオケ大会（各週末）

5 月別生産活動収益

月	月別合計金額
4月	62.555
5月	60.940
6月	57.429
7月	57.838
8月	37.400
9月	47.520
10月	56.085

11 月	77.075
12 月	68.552
1 月	87.538
2 月	65.560
3 月	67.554
合 計	746.046

カトレアの園

1 令和7年度事業総括

令和7年度は入所者43名通所者8名でスタートし、1名が退所され新規に入所者3名を受け入れた。令和7年度末で入所者45名となっている。新規入所者3名の新規入所の目標は達成できた。3月末時点で入所調整、待機中の方が4名おられるが、1名は空床を利用してロングショートを利用中。現在和室しか空床がないため、大部屋の和室を洋室に改装する必要がある。

感染症については年間通じて、罹患者なく過ごすことができた。1名のご利用者は高齢化に伴い、在宅酸素が必要になった。食事摂取が困難になったご利用者に対しては、嚥下状況と介助方法を外部の管理栄養士からレクチャーを受け誤嚥しない介助方法を学んだ。結果的に1か月半後に再入院となり退所となったが、現在嚥下機能に課題がある方に対して定期的に講師として評価していただける関係ができた。

10月と、3月には職員が対応する場面で骨折事案が発生した。10月の事案はご家族・親族含めた苦情に発展したが、2月法人立会いのもと話し合いを行い、一旦納得を得ることができた。この2事案を通じて業務・介助方法の標準化とマニュアル作りの重要性和、安全な介助方法の徹底の必要性を改めて現場と共有した。

管理者・役職者・理学療法士5名が「ノーリフティングケアマネジメント研修」を受講し、ノーリフティングケアを組織的な取り組みとして継続できる仕組み作りを学んだ。1月には「～人の力を引き出す、無理をしない、チームで続ける～ノーリフティングケア宣言」を行い、全職員に取り組みの理念の研修を行った。次年度は「兵庫県ノーリフティングケアモデル施設」として認定を受け、教育体制の構築・リーダー育成、ケア方法の標準化とマニュアルの整備・腰痛予防の取り組みを勧める。これまで計画と実施にとどまっていた組織活動を責任の所在の明確化と評価を行い、PDCAサイクルを継続させ腰痛者の減少と働き続けられる職場づくり、そしてご利用者が2次障害を起こさない、力を引き出すケアの実践を行っていく。

腰痛対策として、風呂場更衣室の床上げ部分を解消し、シャワーベッドを導入し、入浴介助時の不良姿勢の改善を図るなど職員から意見を吸い上げたリスクに対する業務改善に取り組んだ。また特殊浴槽をナノミストバスに買い替えた。職員の業務負担の軽減と、入浴によるご利用者の身体的負担の軽減、安全で、安心して入浴ができ、皮膚や、血流の改善の効果が見込まれる。

会議録やプレゼン資料のAI活用や、紙ベースの連絡事項の廃止、職員による買い物をなくし、「買い物コネクト」という通販を利用することで業務の効率化を図った。

24時間姿勢ケアはノーリフティングケア同様、身体障害をお持ちの利用者には必要なケアとして、職員間での認識が形成できつつある。

統一した、根拠を持った支援の提供のための個別支援の標準化や成育歴の記録はまだ十分に進んでいない。

権利擁護委員会活動として「スピーチロック」と「メラビアンの方則」についてそれぞれポスターを用いてご利用者主体の支援・不適切支援の理解を促す啓発活動を行った。

日中活動については、毎月利用者の意見を取り入れた食のイベントを行い、行事とともに楽しんでいただいた。新たにリンパマッサージのボランティアに毎月来ていただいた。設備・環境整備の面では風呂場の改修のほかに、２台目のリフト車の経年劣化によりキャラバンを清水基金の補助金で買い替えた。

通所の控室が使用されていなかったもので、床上げ部分を解消し、おむつや衛生品の倉庫に改修した。

水回りの修繕箇所が数か所あり、入浴の給湯管・２階厨房への給水管の修繕を行った。

２ 職員配置

施設長	事務員	サービス管理 責任者	看護師	栄養士
１	１	１	３	１
理学療法士	支援員 常勤（内嘱託）	支援員 非 常勤（内派遣）	清掃・洗濯 非常勤	
１	２４（１）	５（４）	４	

令和８年３月３１日現在

３ 外部・内部研修

外部研修

実施日	研修名	参加人数
４月１６日	バリアフリー展	１名
５月１７日	自立支援につながる排泄ケア	１名
５月２６日	フォロワーシップ研修	２名
６月２４日	福祉従事者新任研修	１名
６月２６日２７日	兵庫県高次脳機能障害支援者養成研修 （基礎）	１名
６月２８日２９日	障害者施設職員基礎研修会	２名
７月３日	ＯＪＴリーダー養成研修	２名
７月８日	チーム力を高めるファシリテーション 研修	１名
７月１７日１８日	兵庫県高次脳機能障害支援者養成研修 （実践）	１名
７月３０日	利用者と介護者の体を守る介護技術研 修 姿勢管理編	１名
８月２３日	利用者と介護者の体を守る介護技術研 修 移乗リフト編	１名
８月２７日２８日	腰痛予防推進研修	１名
９月５日	利用者と介護者の体を守る介護技術研 修 起居動作編	１名

10月3日4日	リフトリーダー養成研修	2名
10月11日	利用者と介護者の体を守る介護技術研修 移乗動作編	1名
10月30日31日	動きを引き出すポジショニング研修	2名
11月20日	兵庫県身体障害者支援施設協議会職員研修	5名
9月12日13日 11月8日 12月11日 1月17日	ノーリフティングケアマネジメント研修	5名
12月1～3日 12月10～12日	兵庫県サビ管研修	2名

内部研修

実施日	研修名	参加人数
5月～	移乗介助リフト技術研修	全員
6月11日	B C P 研修	4名
6月12日	すなご特殊浴槽見学	3名
5月6月～	スピーチロック・メラビアンの法則啓発活動	全員
7月9日～	高次脳機能障害について	15名
8月21日～	女性職員トイレリフト介助研修	10名
9月2日	管理栄養士食事介助研修	5名
9月22日～	脳性麻痺・身体障害者の理解	10名
12月1日～	虐待防止研修	全員
12月25日26日	感染症研修	13名
2月8日～	個別支援計画について	14名

4 年間行事

月	日	行 事 内 容	参加人数
4月	1日～17日	近隣の花見ドライブ	46名
	11日	サンドイッチパーティー	44名
	18日	ひまわり会会議	37名
	25日	海鮮チラシパーティー（夕食）	36名
5月	2日	バーベキュー	42名
	18日	るんるん段上ウォーク	4名

	23日	餃子パーティー（夕食）	39名
6月	6日	ラジオ関西 収録	38名
	13日	551パーティー	44名
	27日	ボッチャ大会	48名
7月	4日	ホットドッグパーティー	48名
	19日	聖徳園夏祭り	2名
	25日	ボランティア「お話し畑」読み聞かせ	40名
		フルーツバイキング	45名
8月	1日	そうめん流し	47名
	8日	夏祭り	48名
	29日	マリンバ演奏会	51名
9月	5日	流しそうめん	53名
	26日	ピザパーティー	49名
10月	10日	ケーキバイキング	47名
	24日	バーベキュー	50名
11月	1日	武庫川園祭り	49名
	14日	焼き芋	47名
	28日	花火大会	38名
12月	12日	選択ラーメン	48名
	19日	クリスマス会	49名
1月	1日1・4日	新春カラオケ大会	34名
	1日2日	おでんパーティー	33名
	9日	新年会	49名
	23日	鍋パーティー	47名
2月	13日	寿司パーティー	49名

	2 5 日	地域連携推進会議	3 名
3 月	1 7 日 1 8 日	おにぎり企画	4 6 名
	2 7 日	花見企画	4 9 名

毎月 音楽療法 歌のボランティア アロママッサージ
リンパマッサージ

定期的に ちょこっと外出（近隣施設に買い物）

とことん外出（食事を含めた買い物）

5月26日から とらいやるウィーク 2名受け入れ

9月3日から17日 兵庫県立武庫之荘総合高校実習 2名受け入れ

介護等体験 大学生 15名受け入れ

武庫アルテンハイム

1 令和7年度事業総括

令和7年度実績は、特養利用率 90.4% (54.2 名)、短期入所利用率 38.1% (1.9 名) であった。4 月の時点では例年並みの稼働率であったが、夏場以降は「入院に伴う入居者の速やかな補充」を行い 90%を超える稼働率であった。しかし、2 月～3 月の入院もあり最終的に目標であった年度末稼働率 95%には届かなかった。短期入所については、リピーターの方も年度末に向けて建替え後の利用が難しい生活保護受給者等が多く、新しい利用先を探す方が増えた結果、稼働率が年明けから下がってしまった。

令和7年2月末より着工したアルテンハイム新棟は、法人をはじめ、多くの方々の支援を受けて工事中の大きなトラブルもなく、予定通り令和8年3月末に設計会社・建設会社より鍵渡しを受けることができた。これまでの従来型特養から、ユニット型個室特養へと事業形態を大きく変換することとなり、職員一同が気持ちを引き締めて取り掛かることを確認した。

(1) 「ノーリフトポリシー」の着実な実施

法人理念である「ノーリフトポリシー」を令和6年度より掲げているが、職員体制が安定しない状態が続いた結果、「リフトを使う」職員と「リフトを使わない」職員に分かれた状態を改善できなかった。トイレ介助時に用いる立ち上がりを補助する Hug は、女性職員が2人介助で行わねばならなかったトイレ介助が1人でできるため積極的な使用ができた。次年度、新たにユニット型へと建て替わる中、適切にリフトを用いた離床・臥床介助を行うことで、利用者も職員も生活リズムがゆったり流れるようにしていく。

(2) 「ユニットケアとは何か」について学ぶ

建替え後の介護の在り方が、これまでの従来型における集団介護ではなく、より個別性を求められるユニットケアに変更されることとなる。そのため3人の副主任を順にユニットケアリーダー研修（制度上、各ユニットには常勤のユニットリーダーが必要）に行かせた。また、正規職員・看護師等は、市内のユニット型特養の協力を得て1日見学研修に参加させ、「ユニットケアとは何か」に少しでも触れる機会を設けた。見学を踏まえ、旧アルテンハイムを南北のエリアに分けて「エリア別ケア」を行う予定であったが、これは未実施のままとなってしまった。

(3) 安定した職員体制の確保

今年度、法人として初となる特定技能実習生3人をインドネシアより採用した。令和8年1月末に入国し、2月より着任してもらった。昨年6月より、受け入れ準備をはじめ、紹介業者と連絡を取りながらオンラインで現地との面接を行い、女性3人の採用に至った。3人の特定技能実習生は、来日後は3人での共同生活をしながら休むことなく出勤している。毎週、日本語のオンライン講座を受けながら初めての介護の仕事を覚えようと日々奮闘している。積極性と持ち前の明るさ、明るい笑顔に入居者だけではなく職員も和ませてもらっている。

正規職員は、法人内異動してきた女性職員が 1 ヶ月で休職し 5 月末で退職、また男性職員 2 名も年内に精神的理由にて退職となった。体制確保のため、異動含めて確保した職員 3 名、また定年後に嘱託職員になった職員も 1 年で退職され、職員体制を安定したものにはできなかった。

(4) 補助金活用

今年度は、財団法人 JKA の補助金を得て、経年劣化した送迎用軽自動車の購入をすることができた。購入にかかった費用のうち 135 万円の補助を得ることができた。また、兵庫県の「介護業務における介護テクノロジー導入支援事業」で短期入所生活事業 5 床分が助成金を活用することができた。眠りスキャン、センサー付き介護ベッド、見守りカメラ、介護ソフトの導入に対し 700 万円の補助を得ることができた。新しく建て替える施設において、見守り機器は欠かせないものとなるため助成金を得られたことは大きかった。

2 職員配置 ※派遣職員含む

施設長	事務員	介護支援 専門員	看護職員 (非常勤)	管理栄養士
1	1	1	4 (1)	1
理学療法士 (リープ兼務)	介護職員 常勤	介護職員 非常勤(うち 生活支援)	清掃業務 非常勤	生活相談員 (兼務)
1	18	20 (4)	2	2 (1)

8 年 3 月 31 日現在

3 外部・内部研修

実施日	研修名	主催	参加者
4 月 10 日～ 4 月 21 日	2025 年度採用時研修	法人	1 名
6 月 18 日、28 日、 7 月 8 日	いまづ聖徳園看護業務実習 (ユニット型特養)	いまづ聖徳園	計 3 名
5 月 12 日	阪神ブロック特養看護部会施設 交流会	阪神ブロック特養看護部会	2 名
5 月 26 日	フォローアップ研修	兵庫県人材研修センター	1 名
6 月 12 日	阪神ブロック施設長会総会及び 研修会	あいな清和苑	1 名
6 月 17 日	管内管理栄養士・栄養士合同 研修会	西宮市役所東館 8 階大ホール	1 名
7 月 17 日	初めて福祉の仕事に就く人の	県福祉人材研修センター	1 名

	実践実践研修		
7月23日	ひょうご福祉用具・介護ロボットフェスティバル	アクリエ姫路	2名
8月22日	管理職のためのメンタルヘルス研修	兵庫県人材研修センター	1名
9月3日～4日	ユニットリーダー研修	オンライン（推進協）	1名
9月17日	南あわじ市 DWAT 結成までの取り組み	南あわじ市社会福祉協議会	1名
10月30日	介護福祉士実習指導者研修	兵庫県福祉センター	1名
11月4日	ユニットケア管理者研修	特別養護老人ホームゆうり	1名
11月12日～14日	ユニットリーダー研修	特別養護老人ホームこうのとり	1名
12月12日	ケアプラン基礎研修会	兵庫県福祉センター	1名
12月15日	ひょうご生産性向上実践セミナー in 阪神	尼崎リサーチ・インキュベーションセンター	3名
12月1日～9日	ユニットケアについて学ぶ	第2シルバーコース甲子園	9名
1月 9日	外国人介護職員の円滑な受入れのためのセミナー	オンライン（全老協）	1名
1月19日	阪神ブロック「ACP(人生会議)について」	宝塚すみれ栄光園	1名
1月22日	外国人介護職・無資格の介護職のための接遇研修・介護技術向上研修	こうべ市民福祉交流センター	1名
3月12日	メディカルケアネット西宮「カスハラ」の発生メカニズムを理解し、対応の「引出し」を増やす実践研修	西宮市市民交流センター2階ホール	2名
3月18日～19日	施設ケアマネジメント研修 Bコース	兵庫県人材研修センター	1名

4 法定研修（ジョブメドレーオンライン研修）※全職員対象

月	内 容
5	「認知症ケア」
6	「介護施設での予知防犯と対処研修」
7	「高齢者虐待」①
8	「身体拘束の排除・高齢者虐待防止に関する研修」①②
9	「身体拘束」②、「緊急時の対応に関する研修」
10	「メンタルヘルスケア」
11	「倫理及び法令遵守に関する研修」
12	「緊急時の対応研修」

1	「感染症・食中毒の予防及び蔓延防止に関する研修」
---	--------------------------

5 年間行事

月	行 事
4	・花見昼食会（春のミニ演奏会）
5	・端午の節句会（マグロの解体ショー）、菖蒲湯入浴
6	・出前昼食会（4名）
7	・七夕会（大正琴演奏会）・出前昼食会（2名）
8	・夏祭り（出店、盆踊り）
9	・敬老会（ピアノ演奏会）
10	・喫茶外出（3名）
11	・尼崎武庫川園法人祭（フラダンス、ミュージックセラピー）
12	・クリスマス会（音楽セラピー） ・ゆず湯入浴
1	・新年会
2	・節分会 ・手作りおやつクッキング
3	・お雛祭り会

第2松の園

1 令和7年度事業総括

1. 利用状況

令和7年度、第2松の園は利用契約24名でスタートした。年度途中に2名の新規利用があった一方で、退所者1名、ご逝去された利用者1名がおられ、現在の利用者数は24名となっている。利用者一人ひとりの特性や生活状況に応じた支援を行い、安定した通所および継続的な作業参加につながるよう支援を実施した。

2. 職員体制

令和7年度に職員が体調を崩し、退職される。8月に1名職員が新規採用となり施設長1名 事務員1名 正規職員3名、パート職員4名体制となっている。また、利用者支援と生産活動運営の両立を図るため、職員間での情報共有を密に行い、個々の利用者特性に応じた柔軟な対応を実施した。

3. 生産活動

生産活動に関しては、昨年度導入した大型印字圧着機を活用したペット用品の袋詰め作業が安定して稼働し、第2松の園の中核的作業として定着しつつある。また、目標工賃達成指導員を中心に営業活動を継続し、パソコン・小型家電リサイクル事業についても、地域住民だけでなく、特別支援学校、大学、病院、企業等から継続的な寄付協力をいただくことで、安定した作業量の確保につながった。

そのほか、タオル加工業務、ジョブステーション西宮からの受託作業、西宮市上下水道局からの水道メーター解体作業等も継続実施している。さらに、法人内施設の人手不足解消を目的とした清掃業務、リネン業務、洗車業務等にも取り組み、利用者の作業機会の拡大と工賃向上につなげた。令和7年度の平均工賃月額額は21,000円を超え、前年度（15000円）と比較して大幅な向上となった。既存作業の安定化に加え、新規作業の定着、作業効率の向上、販売活動の強化等が成果につながっている。

4. 余暇活動の充実

外部講師による音楽療法を継続実施し、利用者が楽しみながら参加できる活動機会を提供した。また、ボランティアグループによるマジックショーの開催や、ドッグセラピー団体との交流機会を設けるなど、地域団体との関わりを通じて、利用者が楽しみや癒しを感じられる環境づくりに努めた。作業だけでなく、様々な体験や交流機会を取り入れることで、利用者の生活の充実や社会参加意識の向上につながっている。

季節行事や誕生日会に加え、第1松の園との合同イベント等も実施し、利用者同士の交流機会の充実を図った。作業と余暇活動のバランスを意識しながら、利用者に安心して過ごせる居場所づくりに努めた。

5. 交流の促進

第1松の園との連携を継続し、合同での保護者懇談会や行事等を実施した。同じ通所事業として交流機会を持つことで、利用者・家族間のつながりが深まり、事業所間の連携強化にもつながっている。今後も、利用者の状態像やニーズに応じた役割分担を行いながら、法人全体として切れ目のない支援体制の構築を目指していく。

6. サービスの質の向上

職員の資質向上を目的として、法人内研修や外部研修、オンライン研修等へ継続的かつ計画的に参加した。利用者の障害特性や支援方法について学びを深めることで、個々に応じた支援力の向上を図った。また、職員間での事例共有や意見交換を行い、支援の質の底上げに努めた。

2 職員配置

施設長	事務員	サービス 管理責任者	生活支援員	目標工賃 達成指導員
1	1	1	1	1
職業指導員 常勤	職業指導員 非常勤			
1	4			

令和8年3月31日現在

3 外部・内部研修

実施日	研修名
5月～3月	MBTI・チームビルディング（6回）
5月	チームアプローチ
6月	虐待防止（通所）
8月	利用者主体の支援について
9月	メンタルヘルス研修
10月	専門職としてのコミュニケーション
11月	身体拘束等の適正化の推進 通報の意義と通報後の対応
3月	尼崎武庫川園 実践報告会

4 年間行事

4月	お花見、音楽療法
5月	音楽療法

6 月	音楽療法、ドックセラピー
7 月	音楽療法、福祉ネイル
8 月	夏祭り、音楽療法
9 月	音楽療法
10 月	音楽療法、西宮市民祭り
11 月	武庫川園祭り、インフルエンザ予防接種、音楽療法
12 月	クリスマス会、大掃除、音楽療法
1 月	新年会、音楽療法、福祉ネイル
2 月	個人懇談会、節分会、音楽療法
3 月	ひな祭り、音楽療法、福祉ネイル

5 月別生産活動収益

月	月別合計金額
4 月	452,646
5 月	376,727
6 月	396,336
7 月	580,852
8 月	359,407
9 月	392,399
10 月	752,346
11 月	343,799
12 月	523,064
1 月	336,481
2 月	345,676
3 月	272,575
合 計	5,132,308

リーブ・フルーリー

1 令和7年度事業総括

令和7年度は11月に女性利用者1名が状態急変し入院。その後、病院で亡くなられる。男性利用者3名が9月12月・3月に療養型病院への入院となり退所される。令和7年8月に女性利用者1名・令和7年11月、令和8年3月中に男性利用者2名の入所が決まる。現在男性1床・女性2床が空床となっている。引き続き入所者の希望者を募り、入所調整を行っていく。令和7年度は生活介護事業における年間の平均利用者数は44.0人から46.4人となった。新規利用者が複数名入所したため増員となる。

令和7年2月に男性階でノロウィルスの集団感染が発生。利用者9名、職員4名が罹患。その後、女性階でも同様の症状が発生。女性利用者5名、職員2名が罹患。女性に関しては、ノロウィルスは検出されず、感染性胃腸炎の感染と思われる。男性利用者で食欲不振、脱水で入院される方が数名出たが、順調に回復。その他の方も数日で快方に向かわれた。その後、後遺症と思われる症状の方はいない。

短期入所については、前年度と比べると増加なる。男性利用者のニーズ拡大と女性利用者の利用数が微増したことが要因として挙げられる。法人内外の短期入所のニーズ調査を引き続き続けながら、事業の継続を行っていく。過去5年間の延べ利用者数の推移は以下のようになっている。

年 度	3 年 度	4 年 度	5 年 度	6 年 度	7 年 度
人 数	260 人	484 人	737 人	736 人	800 人

日中行事では、利用者の高齢に伴う状態変化もあり日帰り・一泊旅行は計画を見送る。代替案として昼食を兼ねた買い物外出や、自身で外出先を選んでいただく選択外出を年間行事に取り入れ実施した。利用者の年齢を考慮し、1日をかけて外出をするのではなく、半日の短縮バージョンの外出も取り入れ、利用者の体力に合った外出計画とした。その他、施設内で楽しめる活動や小グループでの活動や、男性女性利用者合同で行う活動（カラオケ・ボッチャ・ミニゲーム等）を取り入れ、利用者の楽しみの創出を行った。

設備備品の更新について、居室のLEDライトに交換だが、10月頃に起きた物流の業者へのサイバーテロの影響で物品の調達が難しくなり、令和8年度に更新時期が延びる。施設内の修繕は経年劣化に伴う2階の浴室、リネン室扉の他に、利用者の居室の修繕を何か所か行った。昨年度更新ができなかったベッドマットの更新も行った。

利用者の健康管理では、協力医療機関及び嘱託医との連携により疾病の早期発見・早期治療に努め、感染症予防措置の強化などに取り組んだ。高齢に伴う認知症や身体状況の変化が見られる方もおられ、今後、現場での対応についての更なる専門知識が必要となってくる。専門医や医療機関とも引き続き協力関係の強化を図っていく。

2 職員配置

施設長	事務員 本部事務兼務	サービス管理 責任者	看護師	管理栄養士
1	1	1	2	1
理学療法士	支援員 常勤（嘱託）	支援員 非常勤	その他	
0	20（4）	10	1	

8年3月31日現在

3 内部・外部研修

<外部>

実施日	研修名	参加人数
5/28・6/25・6/26	強度行動障害支援者養成研修	1名（支援員）
7/29・7/30	サービス管理責任者更新研修	1名（サビ管）
8/18	新任監督者研修	2名（役職者）
10/1・10/9	民間社会福祉施設職員等オンライン海外研修	1名（支援員）
3/12	メディカルジャパン大阪 第26回大老協懇話会	1名（理学療法士）
3/17	監督職研修 「モチベーションとやりがい」	4名（支援員）

<内部> ウェルネットによる介護研修

実施日	研修名	参加人数
5/13・27	介護倫理・ご利用者や介護職員の健康	7名（支援員）
6/10・24 7/8・29	食事摂取の理解と介助	13名（支援員）
8/12・26・	基本動作の介助：起居動作の移乗 （立つことができる利用者の場合）	6名（支援員）
9/9・30	基本動作の介助：起居動作の移乗 （端座位ができる利用者の場合）	7名（支援員）
10/14・28	基本動作の介助：起居動作の移乗 （端座位ができない利用者の場合）	7名（支援員）
11/11・25 12/9・16	排助の理解と介助	12名（支援員）
1/10・27 2/10・24	睡眠時の姿勢の介助	10名（支援員）

<内部> その他

実施日	研修名	参加人数
-----	-----	------

7/14	虐待防止研修	2 名
7/9・1/22	感染症・感染防止対策について	のべ 18 名
2 月中～	権利擁護・虐待防止研修（オンライン）	のべ 33 名

4 年間行事

月	日	行 事 内 容	参加人数
4 月	1～12 日	花見・花見ドライブ	47 人
8 月	5 日	夏祭り・花火大会	45 人
9 月	30 日	バーベキュー大会	48 人
10 月	30 日	ハロウィンイベント	46 人
11 月	1 日	法人祭	46 人
12 月	23 日	クリスマス会	46 人
1 月	20 日	新年会	46 人
3 月	17 日	お楽しみ会・食事会	45 人
8 月～ 翌 3 月		選択外出	45 人

第1 松の園

1. 事業運営の総括

令和7年度、第1松の園は利用契約者47名で開始した。年度途中の動きとして、利用者のライフステージの変化に伴い、法人内外の入所施設へ2名が移行された。一方で、新たに1名をお迎えし、さらに令和8年4月1日付で1名の新規利用が決定したことで、現在は48名が在籍している。

昨年度より掲げている「切れ目のない支援環境の構築」が着実に進み、入所施設への円滑な移行や新規受け入れが計画的に行われた一年となった。また、第2松の園との合同行事や保護者懇談会も定着し、通所事業間の連携強化と家族支援の充実が図る事ができた。

1. 危機管理および安全対策の徹底

感染症対策を継続し安定した運営を維持するとともに、今年度は特に「移動の安全」と「環境整備」に注力した。送迎時の車両残留確認手順を抜本的に見直し、添乗職員、運転手による確実な目視確認と報告フローを徹底し、ヒヤリハット事例の共有を通じて職員の安全意識の向上と再発防止体制の強化を図った。施設の老朽化に伴う点検・修繕を計画的に実施し、事故の未然防止を重視した環境整備を進めた。

2. 利用者支援と活動内容

作業支援と生活介護支援を2本の柱として、季節感と地域性を活かした活動を展開した。既存の受託作業に加え、今年度は自主生産品の種類を大幅に増やし、ラインナップの充実を図った。それに伴い、にしのみや市民祭りや地域行事、各販売会への参加にも注力し地域との接点を広げるとともに、利用者の意欲向上と社会参加の促進につながった。生活介護支援の活動としては、外出活動を積極的に取り入れ、武庫川河川敷や近隣の公園等へ散策に出かけた。散策中に拾い集めたドングリ等の自然素材を創作活動の材料として活用するなど、季節を感じながら豊かな感性を育むプログラムを提供した。季節に合わせた行事も毎月実施し、楽しみや生きがいを感じられる支援の提供に努めた。

3. 支援環境の構築と地域連携

法人内・外部連携：利用者様やご家族に対し、ショートステイ等の福祉サービスの利用を継続的に提案した。その結果、法人内施設での空所発生時に速やかな入所移行ができる環境が整いつつある。併せて近隣の特別支援学校や地域施設からの見学会・実習生を積極的に受け入れ、将来的な利用者獲得に向けた取り組みを継続した。現在、令和8年度からの利用希望を多数いただいております、次年度の飛躍に向けた準備は整いつつある。

4. 職員の資質向上と意識改革

強度行動障害支援者養成研修（基礎・実践・行動援護）をはじめとする外部・オンライン研修や近隣の事業所との事例検討会に参加し、個々の特性に応じた専門的な支援技術を習得し、現場での実践に活かすことで、支援の質の底上げを図った。職場環境の活性化を

図る事を目的とし、職員の配置を年度途中で入れ替える事や意見交換できる時間の創出を行った。「笑顔」を大切にしたい支援方針を再確認することで、活気ある職場づくりに努めた。

5. 今後の課題と展望

現在の課題として、利用率が低下している。特に土曜日開所日の利用率が平日と比較し全体の半数近い方が休まれる傾向にあることが挙げられる。今後は、土曜日ならではの特色あるアクティビティの企画や、ご家族への積極的なニーズ把握・提案を行い、利用満足度の向上と稼働率の改善に努めていく。次年度は、地域での販売活動のさらなる定着や、散策等を通じた地域資源の活用を継続し、利用者一人ひとりの個性に寄り添った活動を深めていく。利用者にとって「ここに来るのが楽しみ」と思っただけの、笑顔あふれる居場所づくりに職員一同邁進していく。

2 職員配置

施設長	事務員	サービス管理 責任者	看護師 パート	栄養士
1	1	1	(1)	0
理学療法士 非常勤	支援員 常勤	支援員 非常勤		
0	9	5		

R8年3月31日現在

3 外部・内部研修

5月～3月	阪神北合同勉強会（10回）
5月～3月	MBTI・チームビルディング（6回）
8月	利用者主体の支援について
9月	メンタルヘルス研修
10月	障害制度と介護保険制度の連携
11月	身体拘束等の適正化の推進
11月	通報の意義と通報後の対応
2月	公開事例発表会
3月	実践報告会

4 7年度行事

4 月	お花見弁当	4 2
5 月	青葉食事会	3 7
6 月	冷たいおやつ会	3 5
6 月	定期健康診断	
7 月	七夕作品展・七夕会	全員
8 月	ミニ夏祭り	3 5
9 月	ミニミニスポーツ大会	4 3
11 月	武庫川園祭り	2
12 月	クリスマス会	4 7
1 月	新年会	3 8
2 月	節分・壁画・バレンタイン	3 7
3 月	ひな祭り・壁画・社会見学	3 9

毎月 誕生会 避難訓練

5 生産活動収益

月	月別合計金額
4 月	126,015
5 月	145,674
6 月	145,940
7 月	177,903
8 月	190,119
9 月	135,284
10 月	198,669
11 月	82,793
12 月	94,942
1 月	59,065

2 月	72, 366
3 月	99, 716
合 計	1, 528, 486

かがやきステーション

1 令和7年度事業総括

法人内通所利用者35名・法人内入所利用者64名・法人外サービス利用者5名・一般就労1名のサービス等利用計画支援、サービス等継続支援を行った。人事異動に伴い相談支援専門員の変更があった。令和7年度は特に入所施設利用者が常時医療が必要な状態になり、入所施設を退所して病院に移りサービス終了につながるケースが多かった。一方法人内の利用者でかがやきステーションへの移行を希望する方には他の相談支援事業者から変更を受け付けた。また高等部を卒業した方の受け入れも行い、新規利用者の獲得につながった。サービス利用によって本人らしい生活が成り立つような支援体制作りを他の関係機関と連携を取りながら行った。

入所施設利用者の「働きたい」「地域で暮らしたい」「充実した余暇活動をしたい」などのニーズに合わせた支援の調整を法人内や他の事業所とも連携をとってきた。外出支援の事業所の紹介やご本人に合うグループホームを探し、見学の同行を行った。

入所施設で空きができた時、入所希望者の情報の整理を行い入所者の選定のサポートを行った。入所者が決まった後はご家族に連絡を行い入所日の調整や聞き取りの面談に立ち会った。

家族と同居していた利用者が一人暮らしをする事になり引っ越しに伴う変更届のサポートを行った。新たに家事援助の申請を行い、事業所を探して契約時に立ち会った。

事業所の職員から虐待を受けた利用者に対しては市役所へ電話で虐待の通報を行い、後日当該の利用者と市役所に同行し担当者に説明を行った。

一人暮らしをしている利用者で精神的な不安から就業ができなくなった為精神科の受診に付き添い今後の生活を一緒に検討した。新たに日中一時の申請を行ったり、地域活動支援センターの見学の同行を行った。就業が難しい期間でも収入を得られるように傷病手当金の申請のサポートを行ったり、生活保護課に同行し相談をした。

定期的に西宮市地域自立支援協議会が開催する研修を受講した。また他の相談支援事業所と情報共有する事ができた。障害者虐待防止研修を受講し権利擁護の意識を高める事ができた。事業所内でも虐待防止委員会を開催した。

2 職員配置

管理者兼相談支援員	相談支援員（他施設職員と兼務）
1	1

令和8年3月31日現在

3 外部・内部研修等

実施月	研修名	参加人数
7 月	法人内研修（虐待防止）	1
8・9 月	相談支援専門員初任者研修	1
8 月	災害・緊急時に備える事業継続の基本と実践	1
10 月	感染症及び食中毒の予防及びまん延の防止の為の研修	1
12 月	ななくさ公開事例発表会	1
12 月	困った行動への関わりを考える	1
12 月・2 月	法人内研修（MBTI）	1
1 月	障害者支援（聞き取り）について	1
3 月	障害者虐待防止研修	1

こころ&つばさ

1 令和7年度事業総括

現在男性2名女性1名の利用者が生活されている。利用希望者1名が見学に来られたが、入所に至らず、相談支援事業所にも情報の提供をお願いしたが、新規入所につながらなかった。

報酬改定で重度訪問介助については令和9年度まで経過措置が決定したが、自治体のほとんどが支給決定は困難な状況にある。

欠員の状態が続いているため、早急に新規入所者の受け入れが必要。ケア記録アプリを導入したことで利用者の状況やスタッフとの連絡、情報共有がしやすくなった。

感染症については年間通じて罹患されることはなく元気に過ごされた。

職員はオンライン研修を活用し、全員に虐待防止研修を行った。

スタッフの急な休みや退職があっても、カトレアの園と連携し兼務している派遣職員やカトレア職員に応援を依頼することができている。

2 職員配置

管理者	サービス管理責任者	支援員 勤	非常
1名	1名	13名	

令和8年3月31日現在